
辰巳砂昌弘氏Gottardi賞を受賞

東京工業大学 工学部

山根正之

Dr. Tatsumisago Receives Gottardi Award

Masayuki Yamane

大阪府立大学工学部助教授の辰巳砂昌弘氏が、国際ガラス委員会 (International Commission on Glass, ICG) から1995年のGottardi賞を授与された。1990年の京都大学工学部助教授平尾一之氏の受賞について、日本人として2人目の快挙である。

Gottardi賞は、国際ガラス委員会の元会長の故V. Gottardi教授の功績を記念して1987年に設けられた賞で、ガラスの分野で優れた業績を挙げた40才未満の若手研究者に毎年1人ずつ授与される。辰巳砂氏の業績は“超急冷による新

種ガラスの作製と特性に関する研究”で、ニューガラスの誌面でお祝いを述べるのに相応しいテーマである。受賞を機にさらに大きく飛躍をとげることと信じている。

平尾、辰巳砂両氏や、Otto-Schott賞 (1991年) とZachariasen賞 (1994年) を受賞した東京工業大学工業材料研究所助教授の細野秀雄氏、Weyl賞 (1992年) を受賞した東京理科大学基礎工学部講師の渡辺裕一氏など、若手のガラス研究者の活躍はめざましい。今後も彼らに続く優秀な研究者が次々と輩出してくることを期待する。

〒152 目黒区大岡山2-12-1

TEL 5734-2552

細野秀雄博士 W. H. Zachariasen 賞受賞

大阪府立大学 工学部
南 努

Dr. H. Hosono: Recipient of W.H. Zachariasen Award'94

Tsutomu Minami

Journal of Non-Crystalline Solids という非晶体関係の国際誌があることは、New Glass の読者には周知のことであろう。1968年から出版されるようになり、すでに、193巻まで刊行されている。ガラス関係では、引用度の最も高い雑誌である。この雑誌が、同誌に掲載された最新の3年間の論文の中から、最も優れた論文の著者(40才未満)に、W. H. Zachariasen 賞を1983年から授与するようになった。初期には3年毎であったが、最近は2年毎に1人ずつ授与されていて、その1994年の賞を東工大細野秀雄博士が受賞した(1995年8月に授与式があっ

た)。直接の受賞対象となった論文は、同誌に1994年に掲載されたイオン注入による SiO_2 ガラスにおけるコロイドの生成や、 SiO_2 ガラスにおける欠陥の問題を扱った3編の論文であるが、細野博士はこの20年程の間に、BSRによるガラスの欠陥に関する研究、透明導電性材料の開発など、多方面にわたって、130余編の論文を発表している。これらの業績に対して、ドイツのErnst-Abbe財団が1991年に創設したOtto-Schott賞の第1回受賞者でもあり、2つの国際賞の受賞は、誠に立派である。心から敬意を表します。なお、詳細なプロフィールは同誌191巻1~2号巻頭頁(1995)に紹介されていることを付記します。

〒593 堺市学園町1番1号
Tel. 0722-52-1161